

真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第11号

平成25年(2013年)
10月1日 発行



大阪別院本堂狭間（二十四孝）

昨今、スクールカーストやママカーストという言葉を耳にします。運動や成績の優秀な者を頂点とするクラス内の序列、そして年収や住居、身に付けるブランドなどによる母親同士の格付けを意味する造語です。

インドにはカースト（「血統」の意）という身分差別制度があります。人間をバラモン（司祭者）・王族・平民・奴隷に分けるのです。お釈迦さまは王族の生まれですが、この生まれによって人間の生涯が決まってしまうカースト制度に疑問を持たれ、「生まれによって尊いのではない、行いによって尊いのである」という意味の言葉を残されています。

インド以来、仏教教団（サンガ）では社会的な身分に関係なくみな平等です。お念仏のみ教えに集う者も御同朋・御同行といわれ、阿弥陀さまのお慈悲のもとで一味平等の世界が開かれてきます。日暮らしの中で新たなカーストを次々と造り出してしまふ、この私の生き方がいま問われています。

（門川崇志）

と う ひ が ん 到 彼 岸



～大阪別院
彼岸会法話より～

光津寺 藤野良昭 ふじの よしあき

て私たちの生きている世界を此の岸、
此岸しがんといいます。

西方極樂浄土

浄土真宗が抛りどころとしている浄土三部経（『仏説無量寿経』『仏説観無量寿経』『仏説阿弥陀経』）の『仏説観無量寿経』の中に、浄土を想う方法として、「沈む夕日を見て浄土を想いなさい」と説かれた「日想観」があります。『仏説阿弥陀経』にも「是より西方十万億の仏土を過ぎて世界あり、名づけて極樂という。その土に仏ありて阿弥陀と号したてまつる」とあります。

四天王寺の石鳥居

大阪・四天王寺の西門の西側にある石鳥居には「釈迦如来 転法輪処 当極樂土 東門中心」（お釈迦さまが仏法を説かれている場所で、ここが極樂の入口である）と書かれてあります。

昔は西門から大阪湾に沈む夕日が綺麗に見えていたそうです。とくにお彼岸の中日には、日が真東から昇り真西に沈んでいきます。西に煌々と沈む夕日を見て浄土を想い、この私の帰らせてもらう国があこの向こうにあると想いを馳せたのでしよう。

お彼岸とは

お彼岸の時期、ご先祖のお墓参りを通して、阿弥陀仏を想い、そこからお念仏の教えに遇っていただくことが大切なことであり、彼岸会法要を勤修することの意義だといいただいていきます。

（平成25年3月20日勤修の

大阪別院彼岸会法話より）

皆さんは「お彼岸」と聞いて何を想像されますか。「春が来た」でしょうか。「おはぎを食べる」でしょうか。「お寺やお墓に行つてご先祖のお参りをする」でしょうか。

たしかに、今の私があるのは、ご先祖のお陰なのでお墓参りをするのは大事なことです。

本来、彼岸とは、彼の岸のことで、西方極樂浄土を示します。これに対し



如^{によ}是^ぜ我^が聞^{もん}

佛光寺門末の成立

滋賀北教区・円通寺 渋谷^{しづや}

晃師^{あきら}



上人は存覚上人に依頼して、関東に流布していたお聖教を新たに書き直して、善知識に与えていくわけです。

一方で、存覚上人の『浄土真要鈔』では、衆生の極楽往生は善知識からの聞法によるものだ、また『持名鈔』では善知識に対する恩徳報謝の重要性が説かれています。

つまり了源上人は教えを説く人物を養成し、そして伝道活動を推進し、功績のあった方々を顕彰するために、一流相承系図や光明本尊にその肖像を描きました。

教化活動を進める中で、本山と末寺において、善知識に対する信仰を確立していくことによって、佛光寺門末が成立したのではないかと渋谷師は語られました。

平成25年7月5日、本山総務部長の渋谷晃師を講師にお迎えし、法友会研修会が開催されました。

一流相承系図^{いちりゅうそうそうじょうけいず}の目的

一流相承系図（絵系図）は、有縁の人々にお念仏の教えをすすめた方々が描かれました。

これは師資相承^{しし}の儀を正しくするということと、後の世までお念仏を弘め、功績のあった人物のお姿（肖像）を残すために制作されました。

その代表的な方が本願、願

心という方々でした。お二人

は主に湖北地方を教化し、お寺の開創やその土地で教えを弘められたことが確認できます。そういった人たちを佛光

寺では一流相承系図の中に描き、後の時代に、末寺に下附^{かふ}された光明本尊の中にもその画像を描くようになります。

つまり教化活動に功績のあった方々に善知識という位置づけを与え、一流相承系図に肖像画を描き、末寺に下附される光明本尊にも、その末寺の開創に携わった方々として

その肖像画を描きました。

本山、末寺での、同じ祖師先徳に対する信仰が、本山と末寺をつなげる役割を果たしたと考えています。

善知識の位置づけ

佛光寺が組織を確立していく初期の段階において、教えを説く人々、今という布教使を了源上人と存覚上人はお育てになられ、善知識という位置づけを与えていきました。

そして、善知識が教えを説くことができるように、了源

（玉出宗順 記）

大阪探検

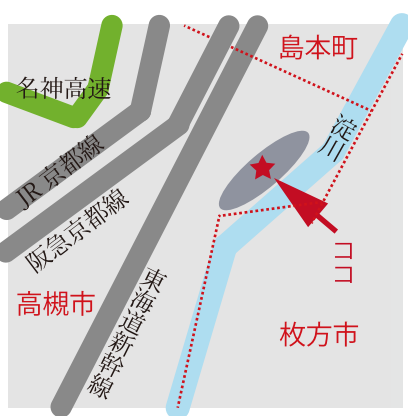
う どの 鵜 殿 の ヨ シ 原



鵜殿のヨシ原



野焼きの様子



鵜殿のヨシ原
(高槻市鵜殿から上牧にかけて)
阪急京都線「上牧駅」から
南へ徒歩約 30 分

大阪府高槻市の淀川河川敷に広がるヨシの群

うどの

生地は「鵜殿のヨシ原」と呼ばれ、いろいろな

動植物が見られます。大寒の過ぎるころには野

焼きが行われることで知られています。

また、鵜殿のヨシから日本唯一、千年以上に

わたり雅楽の要、筆簾ひちりきの蘆舌ろぜつ(リード)が作ら

れてきました。筆簾奏者によると「鵜殿のヨシ

は厚みと弾力に富み割れにくく、このヨシで

ないと、平安時代から伝わる雅な音色は出ない

と言われています。

淀川河川敷の大半は公園、ゴルフ場などに変

わる中、ここ「鵜殿のヨシ原」は近年まで地元

の方々が簾すだれや立て簾たすを作るためにヨシ原を守つ

てこられました。その

広さは、甲子園球場お

よそ18個分です。

しかし1971年、淀川の川底を下げる改修

工事により水位が低下し、ヨシ原の乾燥化が進

みヨシ以外の草がはびこり、ヨシ原群落はかつ

ての5%までになってしまいました。これに危

機感をもった高槻市は官民一体となってヨシ原

再生に取り組んできました。現在20%以上まで

回復し今もなお、雑草駆除が続けておられます。

近頃、「鵜殿のヨシ原」の真上に高速道路の計

画が進められており、環境や生態系の変化が心

配されています。

「鵜殿のヨシ原」は、淀川の水を浄化し、淀川

水系の動物のオアシスであり、また悠久より伝

わる雅楽の要を育み我々にその雅な音色を聞か

せてくれています。少しでもヨシ原に影響が出

ないように保全を願うばかりです。(葦名 彰)

全国の

ごえんさんを訪ねて

じょうこうじ

浄光寺（滋賀）

ながお みちお

永尾道雄 住職



平成 11 年に建立された本堂

永正五（一五〇八）年、天台宗の
ちゅうほんざん
中本山であつた浄光山蓮台寺からご本尊を下附され、その山号を寺号にして浄光寺は開基。そして江戸初期には真宗に改宗されました。

ご住職のお人柄

浄光寺の永尾道雄住職は、勝友会（佛光寺派布教使の会）副会長ならびに、得度研修や夏安居研修の講師を歴任され、多数の肩書きをお持ちの方です。しかし気さく



快慶作のご本尊

なお人柄のご住職は、ユーモアセンス抜群の布教をされ、またパネルやプロジェクターを駆使してわかりやすくご法義を広められています。

とにかくチャレンジ精神旺盛で、佛光寺派僧侶のなかではインターネットオークションの先がけとして現在もいろいろな形で「出品」「入札」をされています。

また、法要の際には「のぼり」を作製され、法要周知にも力を入れておられます。

動画番組出演

浄光寺のご本尊は快慶作で国の重要文化財となっています。以前、

ご本尊がインターネット動画番組で取り上げられ、ご住職ご自身も出演されています。
詳しくは「仏×恋 S-Project」で検索し、「1月25日放送分」をクリックしていただくとご覧いただけます。
(隅谷俊紀)



永代経法要の「のぼり」

■浄光寺（じょうこうじ）

〒520-3026

滋賀県栗東市下鉤740

電話 077-552-0668

Fax 077-552-0668

JR 東海道線

「草津駅」より

徒歩約 20 分（2km）

大悲トピックス

■佛青懇和会で雅楽講習会開催

佛青懇和会では、今年の3月より毎月、雅楽講習会を開催しています。

雅楽演奏で「三管」と呼ばれている笙・篳篥・龍笛。大阪教区では、勝部正典氏（笙）、吉田譲氏（篳篥）、門川崇志氏（龍笛）の三名が、

以前より経験を積まれ、この講習会でも中心となって指導されています。

月に一度の講習会ですが、いつの日か合奏できることを目指して、参加者一同、真剣に練習しています。



① 管別のお稽古（右から笙、篳篥、龍笛）
② 全員で合奏の様子

■滋賀のご住職・大阪別院を参詣

滋賀南教区第三組では毎年、一泊二日の研修旅行を実施されています。今年は7月14、15日の日程で9名のご住職が参加され、大阪別院を参詣されました。

中井輪番が、一昨年に修復された別院を案内し、また50年前に厳修された別院の宗祖親鸞聖人七百回大遠忌の写真を紹介しました。皆さん、興味深く見学されていました。



別院を参詣後は、道成寺（和歌山県）の絵解き説法を聞かれ、南紀白浜椿温泉で宿泊。懇親を深められたそうです。

■懇志御礼

岡山県真庭市 正覚寺様
豊中市 最勝寺様
京都市下京区 大善院様
兵庫県西宮市 常福寺様

ご寺院、お役に立てる商品が、
きっと見つかる情報誌！

寺がある、法が活きる、寺の友社。



〒611-0002 京都府宇治市木幡平尾54番地の2
TEL 0120-7676-39 FAX 0120-7676-29
<http://www.teratomo.jp>

ご希望の、ご寺院には、無料カタログをお送りします。

御本山 近 用達

株式会社 川勝法衣店

フリーダイヤル 0120-075-055

(〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入

電話(075)371-0367(代)

FAX(075)371-5088

御本山佛光寺御用達

井筒法衣店

社長 幾田 潤

〒600-8503

京都市下京区堀川通新花屋町角（西本願寺前）

フリーダイヤルTEL 0120-075-720番

フリーダイヤルFAX 0120-075-490番

（株）小林造園

代表取締役：小林正典

〒603-8442

京都市北区西野山東町 36-1

tel 075-491-4256

fax 075-491-9432

燦ホールディングス グループ

まごころ葬儀を創造する。



公益社 ご葬儀相談センター (24時間・365日受付・通話料無料・携帯電話OK。)

0120-567-701

※2012年5月現在 2-0131

燦ホールディングス グループ

なごみ庵



KITAHAMA

法要料理

希望の場所までお届けします。

■四條畷店
■瓜破店
■伊丹店

☎0743-78-7521

☎06-6769-0140

☎072-773-7531

※2012年5月現在 2-0132

だ い ひ 絵 日 記

- 7月5日(金) 法友会研修会(佛光寺門末の成立・講師:渋谷 晃 師)①
 7月18日(木) 佛青懇和会懇親会
 7月23日(火) 大悲の会編集会議(第11号読み合わせ)
 7月27日(土) 佛青懇和会研修会(雅楽講習会)
 8月13日(火)～15日(木) 大阪別院盂蘭盆会
 8月28日(水) 大悲の会編集会議(第11号読み合わせ)(高照寺にて)②
 9月6日(金) 法友会研修会(お寺の未来・講師:松本紹圭 師)③
 9月20日(金) 大阪別院彼岸会(布教:葦名 彰 師)
 9月23日(月・祝) 大阪別院彼岸会(布教:長田 譲 師)
 9月25日(水) 大悲の会編集会議(第11号発送作業・第12号内容検討)
 9月26日(木) 大阪別院彼岸会(布教:隅谷俊紀 師)
 9月26日(木) さつき会研修会(仏教讃歌・講師:堯 正教 師、田中恵津子 師)
 9月28日(土) 佛青懇和会研修会(雅楽講習会)



本山佛光寺 御用達

石の総合メーカー



株式会社 石留石材

ホームページ

<http://www.ishitome.co.jp>

本社:京都市中京区堀川御池角

TEL 075-841-1149 FAX 075-812-5826

慶事・仏事・各種会合などの際は
和光菴のお料理を御利用下さい。

0120-11-5680

仕出しは年中無休 ※年末年始除く

株式会社 和光菴

京懐石

〒543-0073
大阪市天王寺区生玉寺町3-32

<http://www.wakouan.co.jp>

和光菴



株式会社 モントラベル

〒550-0013

大阪市西区新町1-8-1 行成ビル

TEL. 06-6531-1344

FAX. 06-6531-1346

<http://www.monto.co.jp>

仏跡参拝ならお任せください!

協 賛

法 友 会
さ つ き 会
佛 青 懇 和 会

和奏の会 翠笛会

寺院のイベントに邦楽(尺八・
箏)出張演奏いたします。

曲目はリクエストできます。

事務局:阪南市新町 宝林寺

電話 072-472-1414

<http://homepage2.nifty.com/suiteki/>

表具 八木米寿堂

御本尊掛軸修理 絵画、書の表装

〒600-8073

京都市下京区柳馬場通仏光寺上る

tel 075-351-2853 fax 075-352-3258



大阪教区・別院 行事予定



佛青懇和会（青年会）

10月19日（土）午後4時 仏具おみがき
10月26日（土）午後6時 雅楽研修会

大悲の会（『大悲』編集会議）

10月23日（水）午後6時 編集会議
11月19日（火）午後6時 編集会議
12月25日（水）午後6時 編集会議



※場所明記のない行事は大阪別院で開催

大阪別院・御親修報恩講

10月27日（日）午後2時より

勤行・御親教・複演・挨拶

複演（法話）：駒井道生 師（滋賀・阿弥陀寺）

編集後記

★毎月開催の佛青懇和会主催・雅楽講習会（6頁「大悲トピックス」参照）に私も参加させていただいています。筆箒を習い始めてまだ1年半。音は鳴っても、音色を奏でるまでにはまだまだ。佛青懇和会メンバーで発表できる日を目指して、お稽古の日々です。★その筆箒の蘆舌（リード）の原材料となるヨシ原の

記事を掲載しました（4頁「大阪探検」参照）。人間が快適な生活をするために破壊してきた自然環境。壊すのは一瞬であっても、回復させるのは容易くありません。なかには、元に戻すことができないことも…。人間の身勝手さを、「鵜殿のヨシ原」は教えてくれているのでしょう。（隅谷俊紀）

大阪教区・別院だより『大悲』 第11号
平成25年(2013年)10月1日発行（発行部数2000部）
発行：大悲の会
事務所：佛光寺大阪別院内
〒558-0011 大阪市住吉区荻田6-11-24 電話 06-6691-1362
郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」 加入者名「大悲の会」

大悲の会
長田 譲(会長) 門川崇志(監事)
隅谷俊紀(副会長) 佐々木太一
寿栄松正顕(会計) 葦名 彰
玉出宗順(会計)